



マンハッタン島に架かる橋

北陸銀行 ニューヨーク駐在員事務所
所長

安川 幸治

ニューヨーク市にある5つの区 (borough/boro) の一つマンハッタン区 (島) は、南東側がクイーンズ区やブルックリン区との境界である「イースト川」、西側がニュージャージー州との境界の「ハドソン川」、北東側がブロンクス区とを隔てる「ハーレム川」の3つの川に囲まれています (地図参照)。

このうちハーレム川は、川幅が他の2つの川より狭いこともあって、川に架かる道路橋は14もあります。ロングアイランド湾とニューヨーク湾をつなぐイースト川には5つの橋とトンネルが1つ、ニューヨーク州北部から流れる全長約500kmのハドソン川には1つの橋とトンネルが2つあり、マンハッタン島は合計で20の橋と3つのトンネルで結ばれていることになります。

これらの橋は交通の要所であると同時に、歴史的価値が高く、デザインも魅力的なものが多いのが特徴です。今回はマンハッタン島に架かる橋について紹介します。

1. ブルックリン橋 (イースト川)

ブルックリン橋はアメリカ最古の橋の一つで、世界初の鋼鉄製ワイヤーを使ったフォルムの美しい橋として、映画『ニューヨークの恋人』(2001年、主演: メグ・ライアン) や『ブラック・レイン』(1989年、出演: マイケル・ダグラス、高倉健、松田優作ほか)、その他ドラマや小説の舞台としても数多く取り上げられているニューヨークを象徴する建造物の一つと言えます。多くのワイヤーが張り巡らされ、その幾何学的な美しさから、別名「スティー



ブルックリン橋のアーチ塔

ル・ハープ (Steel Harp)」とも呼ば



ブルックリン橋越しに見るマンハッタンの摩天楼
(中央の建物は2014年に再建されたワンワールドトレードセンター)

れ、1964年には国家歴史的建造物 (National Historic Landmark) に指定されています。

ドイツ出身の土木技師が設計し、14年の歳月をかけて1883年に完成しました。全長は約1825m、高さ84.3mあるゴシック式の石造のアーチ塔から斜めに張られた4本のメインケーブルには、各々2万1000本のワイヤーが使用されています。開通初日には15万人以上もの人が橋を渡ったそうですが、橋の強度を証明するために21頭の象を行進させたというエピソードもあります。

車道のほか、その上層には歩行者と自転車専用道が併設され、対岸のマンハッタンやブルックリンの絶景を眺めながら徒歩30分程で渡ることができます。筆者も両方向から1度ずつ徒歩で渡って見たことがありますが、橋からは、かなり小さいながら自由の女神像を望むことができますし、特にブルックリン側から眺めるブルックリン橋は、ロウアー・マンハッタンの高層ビル群を背景に、夜間はライトアップもされてその景観は魅力的で、歩いてよし、眺めてよしの観光スポットとして大人気です。

2. マンハッタン橋 (イースト川)

ブルックリン橋の東側にほぼ並行して架かるマンハッタン橋は、地下鉄も複数線で走行する二層構造の鉄道・道路併用橋です。1901年に着工し1909年にいったん開通しましたが、数日後に火災で損傷したため、その3年後に全長2089m、最大支間長約450m、高さ102mの鋼製の吊り橋として完成したものです。ラトビアから移住したレオン・モイセイフが設計し、その設計理論がのちにサンフランシスコのゴールデン・ゲート・ブリッジにも採用されました。マ



ダンボ地区から眺める
マンハッタン橋

ンハッタン橋はブルックリン橋よりも完成時期が遅く、知名度も劣りますが、今回紹介する橋の中では最も全長が長く、徒歩で渡ることもできます。またブルックリン側の橋のたもとには、映画『ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ』（1984年、主演：ロバート・デ・ニーロ）の舞台にもなった“DUMBO（ダンボ）”という地区があります。“Down Under Manhattan Bridge Overpass”の略で、石畳と倉庫をリノベーションしたショッピングモールや公園が整備され、写真映えのするスポットとして高い人気を誇っています。

3. クイーンズボロ橋（イースト川）

クイーンズボロ橋の正式名称は、第105代NY市長の名前を冠した「エド・コッチ・クイーンズボロ橋」ですが、マンハッタン側の街路が59th Streetに接続するため、“59丁目橋”とも呼ばれ、サイモン＆ガーファנקルの歌のタイトル『The 59th Street Bridge Song (Feelin' Groovy)』（1966年）にもなっています。開通は1909年で約1800万ドルを費やしたとのこと。全長は1135mありますが、イースト川の中州のようなルーズベルト島に橋脚が設置されています。

橋の構造はイースト川に架かる前述の2つの橋やウィリアムバーグ橋が吊り橋なのに対し、カンチレバー（片持ち梁）トラス構造となっており、重厚感のある独特のフォルムが美しい橋です。

開通当初は、高架鉄道の線路が上層に走る二層構造でしたが、のちに鉄道は撤去されました。途中のルーズベルト島にも橋からエレベータや階段で下りることができましたが、1970年にこれらは撤去され、現在は車両と徒歩での通行ができるものの、当橋を使ってルーズベルト島に行くことはできません。代わりに、ルーズベルト島を往復するスキー場のゴンドラリフトのような“トラムウェイ”がマンハッタン側から橋に並行して運行されているほか、フェリーが島とマンハッタン側・クイーンズ側の両方を結んでいます。筆者はこの橋も徒歩で



クイーンズボロ橋と並行して運行される
ルーズベルト・アイランド・トラムウェイ

4. ジョージ・ワシントン橋（ハドソン川）

ジョージ・ワシントン橋はマンハッタン島北部からニュージャージー州へ向かう際にハドソン川を渡る唯一の橋で、1927年に着工、4年後の1931年に完成し

ました。名称は略してGWB (George Washington Bridge)。多くの日本人駐在員が暮らすニュージャージー州の街“Fort Lee”に近い



ため日本人の利用も多く、日本人 ハドソン川に架かるジョージ・ワシントン橋からは“ジョー・ワシ”と呼ばれています。橋の両端は、元々アメリカ独立戦争時の1776年にニューヨーク市を占領されるのを阻止するために砦が築かれ要塞化した場所にあたります。全幅は1450m、最大支間長は1067mと完成当時は世界最長の鋼製吊り橋でした。当初は6車線（片側3車線）でしたが、1946年に両側1車線ずつが追加、交通量増加に伴い1962年にはさらに下層6車線の追加により二層化され、橋全体で14車線もあります。世界一の車両交通量を誇るこの橋は、前述の3つの橋が無料通行できるのに対し、ニュージャージー州からマンハッタンに入る時のみ通行料が徴収されます（標準4輪乗用車タイプ・オブピーク・E-Z Pass（日本のETCに相当）利用で2025年8月現在約\$14）。ちなみに、反対方向のマンハッタンからニュージャージーに渡る場合は無料です。

5. ハーレム川に架かる橋

ハーレム川の川幅は東西の川ほど広くないため、マンハッタン区の北側のブロンクス区を結ぶ橋は14本あり、全長もほぼ1000m未満です。ハーレム川は運河としても活用されており、船舶通過時には橋桁が回転するものや、垂直にリフトアップするタイプの橋が多いのも特徴です。

以上、マンハッタン島に架かる代表的な橋を紹介しました。ニューヨークにお越しの際は、ぜひ車や徒歩で渡ってみる、またはフェリーや遊覧船で橋をくぐってみてください。

